

令和5年度 学校評価報告書

学校番号(中05) 長崎市立(長崎中)学校

1 教育目標

「自ら求めて学ぶ」生徒の育成

2 学校経営方針

各種学力調査等や学校評価アンケートの結果などから、本校生徒の根っこの課題を「失敗を恐れる、逃避する」と考えた。そのことをもとに、本校の基本課題を「しなやかに考え、あきらめずに挑戦する生徒」とした。この基本課題の解決に向けて生徒の自治的な活動の機会を増やしたり、一人一台の学習者用端末を有効活用したりするなど果敢に挑戦する。

3 重点目標

「自律」「調整」「創造」の伸長を図る。

1. みんなが過ごしやすい学校の創造
2. 恒常的な確かな学力向上への取組
3. 校内研修の充実による指導力向上
4. 学習のつまづきへの対応
5. 平和・人権教育の推進
6. 特別支援教育ならびに生徒指導の充実
7. 基本的な生活習慣を身に付けさせる指導の充実
8. 体力向上の推進
9. 地域とのつながりを意識した経営の強化
10. ふるさとキャリア教育の充実
11. 働き方改革の推進

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	91%	83%	93%	「しなやかに考え、あきらめずに挑戦する生徒」を育成するという目標が共有され、「明るく楽しい雰囲気」の中で教育活動がすすんでいると評価されており、今後とも様々な教育活動を意欲的にすすめていく。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	99%	94%	100%	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			87%	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			67%	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	96%	87%	87%	あいさつに関する生徒と職員の評価の差が大きい。校内でのあいさつを交わす際の印象によるものと思われる。 いじめ防止については、見逃しゼロを実現するために、丁寧な観察、チャンス相談と対応を継続していく必要がある。
		挨拶をよくしている	95%	85%	73%	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)				
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	93%	88%	100%	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	88%	83%	100%	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	97%	89%	93%	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	91%	88%	80%	
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	94%	77%	93%		
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	95%	90%	100%	家庭学習の習慣については、三者とも厳しい評価である。画一的な宿題は原則として課さないことの意味は丁寧に説明し、家庭学習の手立てを示すなどして主体的な学びの実現につなげていく。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	91%	84%	100%	
		家庭学習の習慣が身に付いている	60%	46%	20%	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	91%	79%	93%	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		94%				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	98%	93%	100%	「早寝・早起き・朝ごはん」の評価の三者の差が大きい。様々な理由で就寝時間が遅くなり、生活習慣が乱れていることが危惧される。12月にメディア利用に関する講演会を実施し、メディアとの付き合い方を見直すよい契機となった様子である。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	77%	70%	60%	
		体力向上に努めている	97%	87%	93%	
	食育	食に関する教育活動を行っている	98%	87%	87%	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	97%	89%	100%	おおむね良好である。各種通信、ホームページの利用によるタイムリーな情報発信は継続していく。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	94%	86%	100%	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている		92%	100%	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			93%	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	95%	83%	87%	「環境が人を作る」という言葉の通り、環境整備について継続して力を注ぐ必要がある。これからも「働きやすさ」と「働きがい」にあふれた職場づくりに尽力していく。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			87%	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

<成果・課題>

・「家庭学習の習慣が身に付いている」の評価が生徒、保護者、教職員の三者とも低いのが本校の最大の課題である。本校では、主体的な学びを進めるために、一律に課す宿題の廃止、期末テストを廃止、単元末テストの実施、単元内自由進捗学習の実施、学習を計画的に進めるためにスケジュール記入などに取り組んでいる。今後も日々の授業の充実にも努め、主体的な家庭学習につなげるとともに、発達段階を考えた上で、家庭学習の習慣が身につくよう支援をすすめていく。

・各種学力調査の結果は、全体として良好である。学習者用端末(デジタルドリルなど)の有効活用を通して、学力が伸び悩む生徒への支援を継続していく。

・「学校は明るい雰囲気である」の評価が生徒、保護者、教職員の三者とも高く、キャリア教育の生徒と職員の評価は高い。本年度、起業体験学習を手探りの中での実施したが、子どもは有能な学び手であることを実感する取組となった。取組の総括をして、今後の実践につなげていく。

6 学校関係者評価

・学習について、「主体性」を育てるために、宿題を一律に課すことをやめ、単元末テストを実施するなど、取組を工夫していることはわかった。自主性は本当の「やる気」や「困り感」を解決しようとする時に生まれるものであろう。実態に応じつつ、主体性を育てる取組を継続してほしい。

・ネットを介して様々なコミュニケーションをとることが多い時代である。起業体験学習もそうであったが、実際の人と人との関わり、豊かな人間関係を構築する取組に期待したい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

・主体的な学習への取組については、保護者へはその意図を丁寧に説明しつつ、自学プリントを準備したり、先輩の経験を後輩に聞かせる場を設けるなどして、発達段階に応じた具体的な手立てを実践していく。

・起業体験学習については、今年度の取組の総括し、豊かな人間関係を築く取組をさらに充実させていく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。